



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦

2023年3月28日

NEWSLETTER 第676号

www.wfmjapan.org

刊行名 世界連邦News letter

発行所 世界連邦運動協会 〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443 E-mail info@wfmjapan.org



wfmjapan

購読 郵便振替 00190-6-29964

1部100円(年6回 奇数月28日1回発行)

購読料は会費・寄付金に含めて収納

大橋光夫氏が世界連邦運動協会第9代会長に就任

海部俊樹元総理ご逝去後、空席となっていた世界連邦運動協会の会長に株式会社レゾナック・ホールディングス(旧 昭和電工株式会社) 名誉相談役の大橋光夫氏のご就任されました。

以前から大橋氏が講演等で世界連邦の

必要性を語っておられることもあり、氏に就任を依頼しようと考え、世界連邦日本国委員会委員会の衛藤征士郎会長のご紹介で大橋氏に面会して運動協会会長就任を要請、ご内諾をいただきました。3月24日に臨時総会を開催し、正式に就任が決定されまし

た。臨時総会では中野寛成会長代行、木戸寛孝理事長から経緯等について説明があり、満場一致で承認後、大橋新会長から以下の就任の挨拶がありました。

会長就任のご挨拶



ただいま世界連邦運動協会の第9代会長を拝命いたしました、大橋光夫です。

ヨーロッパを中心に30カ国内外が加盟し、世界連邦に向けて大きく前進しつつあるとも言えるのです。アジアでは残念ながらまだ世界連邦運動こそあれ、見える形その域には達していません。従って、我々日本は今こそ、世界連邦運動の先頭に立ち、より真剣に取り組むことが望まれます。

皆様の長年のご努力により、衆議院・参議院両院で世界連邦の国会決議が行なわれております。決議の中では、国際機構の改革強化・国際法の発展・軍縮外交の推進、そして世界連邦実現の道の探求などに政府が努力するべきであることが明示されております。日本政府はこの決議を行なった国としてふさわしい行動を取らなければなりません。岸田首相も意を決してウクライナへ行かれました。そして、ゼレンスキー大統領と会談され、支援を約束されました。

今年は広島でG7サミットがあり、また今年より二年間日本は国際連合の非常任理事国として国連安全保障理事会に関わります。この機会に国連をはじめとする国際機関をより発展させ、究極的には世界連邦実現へとつながるよう、日本がリーダーシップを発揮するべき時が来たのです。

皆様が長年にわたりこの運動に関わってこられたことに私は深甚なる敬意を表したいと思います。私も情熱では皆様に決して負けないつもりです。皆様のこれまでのご経験に支えていただきながら、皆様の指導を受けながら、皆様とともに世界連邦実現に向けて運動の高まりを図ることをお誓い申し上げて私の就任のご挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

ロシアによるウクライナ侵攻を見ましても、77年前につくられた現在の国連連合は、世界の平和を維持するためには不十分であります。

民族や宗教の違いが原因となる国家間の争いや、世界における自国の影響力を維持或いは拡大したいという各国の願望が、結果的に戦争と人間の殺し合いを継続させています。従って、このまま事態が改善できなければ、核の脅威で世界人類の破滅が数十年先の地球の姿かも知れないのです。

だとすれば、人類が互いに信頼と尊敬を維持し、繁栄していくためには、世界連邦を実現していくより道はないのです。その点は皆様と想いを共通しております。

事実、欧州では、経済連携を中心としたEU 或いは軍事同盟としての NATO には、

大橋 光夫氏の略歴

【職歴】

昭和34年3月：(株)三井銀行入行
昭和36年12月：昭和電工(株)入社
平成1年3月～平成31年3月：同取締役、常務取締役、専務取締役、代表取締役社長、代表取締役会長、相談役、最高顧問、名誉相談役などを歴任
令和5年1月：(株)レゾナック・ホールディングス(旧昭和電工(株)) 名誉相談役

【主な団体・公職歴】

平成23年6月～平成29年6月：日中経済協会副会長
平成23年6月～現在：交流協会(現：日本台湾交流協会) 会長
平成27年11月～現在：国民政治協会会長

文部科学省、世界連邦宣言自治体全国協議会後援 第51回世界連邦推進全国小・中学生 ポスター・作文コンクール表彰式

第 51 回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール（文部科学省と世界連邦宣言自治体全国協議会が後援）優秀作品展が 2023 年 2 月 22 日から 3 月 5 日まで、東京・市ヶ谷の JICA 地球ひろば 2 階ギャラリースペースで開催されました。



中野寛成会長代行

三年ぶりの表彰式は、2 月 25 日、JICA 地球ひろば セミナールーム 600 で行われ、入選した児童・生徒、父

母や親族など約 65 名が全国から出席。中野寛成会長代りの挨拶のあと、文部科学大臣賞状と副賞（トロフィー）及び各賞の賞状と副賞（特賞：楯、湯川スミ賞：ブロンズ、入賞：楯、佳作：メダル）が受賞された皆さんに授与されました。今回はポスターが 101 校 1,237 点、作文は 38 校 460 点の応募があり、コロナ禍以前の応募数にもどりつつあったことは幸いでした。

表彰式では、文部科学大臣賞を受賞した井上歩乃花さん（中学 3 年）、特賞を受賞した宗凛太郎さん（小学 5 年）と入賞の榊間結女さん（中学 2 年）の三名が作文を朗読しました。それぞれの視点で平和への思いや、自分たちがどのように行動していけば平和を築くことができるかということを力強く語っていただきました。

審査講評については、作文の部の審査員である松香光夫先生からは直接お話しいただき、ポスターの部の審査員である廣畑正剛氏からは欠席のため事前に送っていただいた、入賞者一人一人へのメッセージを司会が代読しました。

中野寛成会長代行は、ご挨拶の中でご自身の戦争体験を話されたところ、表彰式

の終了後、お話しに感激した皆さんが中野会長代行のところに集まったので、ご家族の方々とも話しを交わされ、受賞者の皆さんとも写真撮影をなされていました。

三年ぶりにご家族とともに参加、受賞した生徒たちの誇らしげな笑顔から元気ももらい、これからの未来は明るいと感じられました。21 世紀フォーラムのスタッフの協力もあり、表彰式は無事終了。優秀作品集の作成にあたっては、徳島支部の宮崎太理事、教育広報委員会副委員長・税所貴一執行理事に多大なるご尽力をいただきました。

今回のコンクールにおいても各支部のご協力をいただき、たくさんの応募が期待されました。次回も多くの応募者があるように、また表彰式で受賞された生徒の皆さんの誇らしげな笑顔に出会いたいと願っております。

（川口 美貴）

【ポスター審査講評】

◇廣畑正剛先生

たくさんの応募作品を審査し、今回は非常にバラエティに富んでいるというのが一番の印象です。写真をはったり、あるいはちぎり絵をしたりなど、通年多く見受けられた万国旗で地球をかたどるというような定番なものがとても少なくなったと感じました。

その反面、今の世相を反映したようなイラスト的な人物などには今の映像などの影響があると思います。しかし、そういう現代的なもの、それと暗示をするような作品をそのまま全部描いているわけではないが、人の形だけが形として残る、あるいは顔だけが残るというような暗示を相手に感じさせる作品、そういう作品も多かったのではないのでしょうか。

小学生低学年の子などの作品にはなく

り書きのようなものもあり、小学生高学年と中学生とではそれぞれ学年に合った内容になっているかなという感じを受けます。色も非常にバラエティ豊かできれいです。

◇一の瀬洋先生

今年度で四回目の審査ですが、昨年度、一昨年度と比べると個性が出てきたという印象です。類似作品がとても少なく、個性的で妙な緊張感がないポスター作品が多い。ねらいもなかなかよくわかりますので、ポスター性という意味では非常に水準が高い作品が多く、なかなか知性的なものを感じます。このまま感性を磨いていってほしいと思います。

今回は海外の学生からの応募も何点ありました。画面構成がとてもユニークで色彩もきれいです。

今日性という観点で皆さん反射神経がいいな、塗り方など丁寧な仕事をされているのもいいなと思います。丁寧な仕事というのは人生観で大事なことです。丁寧にもものに接する、丁寧に生きるということを大事にしてください。これからこの丁寧な気持ちで、なお一層美術に関心をもって学んでいただくよう期待しています。

【作文審査講評】

◇松香光夫先生

今回は平和論にとって特別な年になった。ロシアのウクライナ侵攻が目の前に展開され、その状況が日々に見えるようになったことだ。若い世代にとってこれまでよりも直接の刺激になり、より具体的な映像として迫ってくる。

こういう時代にあって、被曝を経験した日本が「平和」をより身近なきっかけを抛り所として考えることができるようになったのは、前進だと言えるだろう。これを機会に、説得力を加えた平和論の構築を試みてほしい。

一方で、地球環境の変化をとらえ、SDGsに見られるような日々の生活の対応を考えながら暮らしてゆく道を追求するの、この機会の活かし方と言えるだろう。

◇立花典子先生

今回の応募作品は、予想通り、連日報道されるロシア・ウクライナ情勢と、かつて広島・長崎に起きたこととを結びつけて「世界平和」を深く考えた作品が大半を占めていました。日本に暮らす子どもたちも、戦争が過去のものではなく、現在進行形のものであることを否応なく実感しているのでしょう。今まで以上に「平和」の尊さを深く掘り下げて考えた作品が多いという印象でした。

また、近年盛んに話題として取り上げられているSDGsに観点を置いた作品も多く

ありました。どの作品にも、現状をしっかりと調べ上げたうえで自分にもできることを探そうとする、堅実な情勢がよく表れていました。

言いたいことが多すぎて話題が逸れる傾向が見られた点は、今後の改善点です。しかし、様々な問題に目を向け、世界で何

が起きているのかちゃんと知り、自分たちの行動によって平和な世界を築こうという決意が文章から強く伝わってくる点は、高く評価できました。



作文の部・文部科学大臣賞「平和について考えるきっかけを」 綾部市立上林中学校三年 井上 歩乃花

「八月六日」「八月九日」、この数字を見て頭にパツとある恐ろしい出来事を思い浮かべる人が多いだろう。私は毎年、この二日を特に何もなかったように過ごしてしまっている。しかし、今年の八月九日、テレビで長崎の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典のニュースが流れた時、幸せな日常を一瞬で奪う核爆弾への恐怖を覚えた一つの出来事を思い出した。

「ふりそでの少女像」を知っているだろうか。七十七年前、長崎で被爆した二人の少女の像だ。私は二年前、学校の授業で、この二人の少女の実話が描かれている「ふりそでの少女」という絵本を初めて読んだ。同じく被爆した作者が、火葬される二人の少女の姿が忘れられず、その光景を一枚の絵にし、二人の少女について知っていくという戦争の恐ろしい情景が細かく描かれた絵本である。この絵本の最後に、「あなたたちの死を無駄にしないよう、私たちは平和を訴え続けます」と書かれている。この絵本を読み終わった時、今まで戦争は

昔のことで他人事のように考えた自分が嫌になった。それと同時に、体がふるえるぐらい戦争への憎しみを感じたことを二年経った今でも覚えている。

私が住む綾部市は、ふりそでの少女の一人のお母さんが住んでいた。そのお母さんは、綾部の中学生に像を造りたいと相談した。私と同じ中学生、しかも同じ地元の中学生が協力し、ふりそでの少女像を造るための街頭募金を行っていた。その事実を知り、戦争を経験していなくても平和を願い、「戦争」という恐ろしい過去を残すべく行動した中学生を、私は尊敬せざるを得ない気持ちになった。

私は、二年越しに「ふりそでの少女」の絵本を読んだ。二年前と同様、戦争は憎むべきものであり、二度と起こってはいけないと思ったのと同時に、私が「ふりそでの少女」を通して戦争の恐怖を知り、平和を願う気持ちが芽生えたように、自分ももっと戦争の本質をさぐり学び、誰かの、戦争について考えるきっかけをつくりたいと

思った。

戦争を経験した人が減ってきている今、「戦争＝昔のこと」と捉えている人が多いのではないかと。しかし、現在ロシアのウクライナ侵攻という、平和とは真逆な恐ろしい出来事が起きている。戦争の時代を生きていない私達からすると、とても衝撃的な光景をニュースで目の当たりにしている。私は、決して戦争は現代と程遠くはないと思う。起こるべきでない戦争がいつ起きてもおかしくないと、私は実感している。戦争を起こさないためには、戦争を知らないからこそ関心を持ち、知ろうとすることが必要だ。また、被爆され亡くなられた方の命が無駄にならないよう、今を生きる私達は次世代へ語り継ぐ義務があると思う。全ての人が手を取り合い、心から平和を願う世の中になってほしい。

そこで私は、一つの疑問が頭に浮かんだ。「そもそも平和とは……。戦争がない世界は平和なのか。核兵器が存在しない世界は平和なのか。」私はそうではないと

思った。周りで心ない言葉をかけている人を見かけたことはないだろうか。差別やいじめをしている人がいないだろうか。戦争よりも身近なことに感じると思うが、これらのことで命を自ら絶つ人も残念ながらいる。戦争をしていなくても核兵器を使っていなくても、人を傷付け追い詰め命

を奪うのならば、それは現代の戦争の形になってしまっているのだと、私は考える。

せつかくこの世界で生きているのなら、悲しみや苦しみ、おろかさを感じて生きるより、人々の温もりがそばにある方がいい。戦争を起こすのは人。平和をつくるのも人。だから私は、戦争で命を落とした人の分も

伝えたい。誰かの戦争について考えるきっかけをつくりたい。何年経っても、「八月六日」「八月九日」、この数字を見ると頭にパツとあの恐ろしい出来事を思い浮かべる人が続くために。

ポスターの部・文部科学大臣賞
海津市立城山小学校三年 加藤 愛望



世界連邦文化教育推進協議会第七回全国推進大会が開催

2023年2月1日、世界連邦文化教育推進協議会第七回全国推進大会が、京都市内のリーガロイヤルホテルにおいて、三笠宮家の彬子女王殿下のご臨席の光栄に浴し、開催された。

筆者も世界連邦日本国会委員会衛藤征士郎会長の代理で出席した。世界連邦文化教育推進協議会の全国推進大会は、前回の第六回大会は新型コロナウイルス感染症のため、リモートでの開催であり、今

回は2019年の第五回以来、久々の対面での開催が実現した。

今回の大会では、内科医で宇沢国際学館代表取締役の占部まり氏の講演が行われた。講演は、「社会的共通資本からみえる新しい資本主義～宇沢弘文のつたえたかったもの～」と題し、占部氏のご尊父であった、日本を代表する経済学者、故宇沢弘文・東大名誉教授のお話をいただいた。占部氏の講演の概要は以下の通り



占部まり氏
(世界連邦文化教育推進協議会
Webサイトより引用)

である。

自分の父(宇沢弘文)は、豊かな社会の構築を経済学者としての立場から真摯に取り組んできた。その

なかで考えてきたのは、やはり平和というもの的大事であるということであった。平

和構築のために大切なのは水、食料、教育、医療、道路などの「社会的共通資本」である。これらは必ず需要があり、市場だけに任せると価格が上がる。そこで国や地域の社会で守ることが必要だ。しかし、人間の特性にあった資本主義も活用しなければいけないということも同時に考えた。資本主義は、イノベーションが起りやすく、労働搾取も実は社会主義よりは「まし」である。例えば「消費者が児童労働など搾取によって製品化したものは買わない」などの制限が市場からかかるからだ。そこで社会主義、資本主義のそれぞれの特性を活かしたものを考えねばならないとした。

経済は人間の心で動くものである。父が昭和天皇に御進講した際に緊張して「しどろもどろ」になってしまったが、昭和天皇から「君は経済、経済というが、要するに、心が大事、と言いたいんだね」と総括され

たエピソードもある。また孔子の「40 にして惑わず」という言葉があるが、この「惑わず」は「枠にはまらない」という意味で解釈した。父も「数理経済学」の枠を超えて、「全ての人々が先天的・後天的な能力を活かし、できるだけ多様な接触を持ち高い文化的水準の一生を送ることが可能な社会」を模索した。ひとりあたりの生活保護費負担率が大阪は新潟の倍になる例を出し、実はお金に換算できない価値が社会を支えていることを提唱した。自然や、子供など、お金に換算できないものは、経済学では扱いにくいものである。こういう物事を大切にしようということが「社会的共通資本」の考え方だ。自然環境を経済学に取り入れたのも父が初めてだ。誰ひとり取り残さない社会、SDGs も同じ。この17 の目標を取りまとめるのも、「社会的共通資本」だ。近代以降、世界は社会主義と

資本主義をいったりきたりしたが、結局社会は豊かになっていないという。父は一生を通じて、経済学というものはもっと人間というものを大切にしなければいけない、と訴えつづけてきたのである。

以上のような内容だった。そのほか宇沢弘文氏の経歴などにも触れ、とてもわかりやすかった。筆者は、世界連邦を実現させるとき、どういった政治・経済の制度にするかは非常に大きな問題であると考えている。世界連邦は外圧がないため、制度設計を間違えれば、非常に危険な制度になるかも知れない。そのため、この大会での講演は、大変示唆に富む素晴らしいものだった。

(谷本 真邦)

京都・大阪府支部が ロシア・ウクライナ問題について勉強会を開催 京都大阪府支部 税所 貴一



小野元裕氏

世界連邦運動協会の京都・大阪府支部では、2023年2月9日(木)12時より京都祇園四条のレストランキエフにてロシア・ウクライナ問題についての勉強会を開催。講師として日本ウクライナ文化交流協会の小野元裕会長をお招きし、ウクライナの現状、この戦争の原因、ウクライナの人々が支援として何を望んでいるかなどについてご講演いただきました。私たちがふだんメディア等で見聞きしているよりもはるかに壮絶な現状に参加者も驚きながら、自分たちに何ができるかを真剣に考える機会となりました。

講演会のあとは、レストランキエフ様の美味しいお料理に舌鼓を打ちながら、楽しく参加者同士の懇親を深めました。そして今回、湯川由規子様より世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクールの特別賞湯川スミ賞に対して、



湯川由規子氏と中野会長代行

多大なご寄付をいただきました。

これからも子どもたちのために、恒久的世界平和のために、この世界連邦運動を進めていこうと参加者全員で改めて誓いながら、講師の小野元裕氏の夫人で歌手のオノアキ様によるウクライナの国歌をお聞きして終了いたしました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。



荻野忠則副会長のご逝去を悼む



世界連邦運動協会副会長、同北海道支部長を務められた荻野忠則さんが2023年2月8日に逝去されました。

荻野さんの世界連邦に対する情熱は相当なものでした。執行理事会などが行われると、本部事務局よりも先に報告書を作成し、北海道支部の会員に伝えていました。また、ほぼ毎回会議の前に詳しい資料を作って提案をなさり、それらの資料は数ページにとどまらず小冊子になることもあったくらいです。さらに荻野さんは、はちどりクラブの編集協力を得て『どうしてもほしい世界共同体 その名は世界連邦』や『世界連邦ハンドブック 健やかに生き

る』という本も著しました。前者は私の手元に8冊予備がありますので、ご希望の方はご連絡ください。

荻野さんの提案に対して、「熱意はわかるが時期尚早」として私や木戸さんが反対して否決してしまったことがあります。そんな会議後でも荻野さんはいつも「これからも頑張ってください」と言って、にっこり笑って握手を求めたものでした。世の中には自分の提案が受け入れられないと恨んだり、人間関係まで断ち切ったりする人もいますが、荻野さんは議論で意見が異なっても、決して恨んだりしない、最高の人格者でした。いつも笑顔が本当に素敵でした。

選挙のたびに、まだ世界連邦日本国会委員会に入会していない北海道選出議員に手紙を書き、入会を勧誘してくださいました。お蔭で北海道出身の議員さんには多

く入会していただいております。

荻野さんの熱心なご活躍に対して2019年に感謝状を贈呈するという話が持ち上がった際、「この機会に何十年以上も世界連邦運動を続けている人みんなに感謝状を贈呈してはどうか」という意見に議論の方向が傾きかけました。すると木戸さんが「そんなふうに形式的に決めるのは良くない。自分は荻野さんにはぜひ感謝状を贈りたいし、そのように感謝状は本当に渡したい人にあげるべきではないか。」と言い、皆さんが大きくなずきました。荻野さんの熱意溢れるご活動は誰しも認めるところでした。

荻野さんのご熱意や素晴らしいお人柄には学ぶべき点が多くありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(塩浜 修)

横路孝弘先生のご逝去を悼む



世界連邦日本国会委員会の第16代会長を務められた横路孝弘先生（元北海道知事・元衆議院議長）が2023

年2月2日、肝内胆管がんのため逝去されました。

横路先生は最初に国会委員会会長をお願いした際には忙しさを理由に少し躊躇されたものの、事務総長の大島章宏先生が「ご負担はかけませんから」「しばらくの間だけでも」とおっしゃってお引き受けいただいた次第です。お引き受けいただいた後は大変熱心に取り組んでくださいまし

た。国会委員会での研修会について、それまでは私ども事務局の側で「この方を講師にこのようなテーマでいかがでしょうか」と提案していましたが、横路先生は「来月はPKOのことをやろう」「TICADをテーマにやろう」とテーマを提示してご指示くださるようになったのです。また、日本大会や中東和平プロジェクト、自治体協議会総会など、国会外でのイベントにもご参加いただきました。

国際刑事裁判所のことは、今でこそ高校の政治経済で習う事項になっていますが、日本を加入させるために私たちが動いていた頃はほとんど知られていませんでした。国会議員の先生方に面談を申し込んだり、国際司法裁判所と国際刑事裁判所

の違いから説明したものです。そんな中、お会いした時点で既に国際刑事裁判所のことをよくご存知だった数少ない議員の一人が横路先生でした。相当な政策通で、国際連帯税のことなども細かい数字まで覚えておられました。

2017年に横路会長・大島事務総長ともに次の選挙に出馬しないことを表明なさった際、大島先生が「会の運営に空白を作らないため、事務総長を他の人と代わりたいたい」とおっしゃったところ、横路先生は「そんなことを言ったら僕も代わらなければならなくなるじゃないか」とご返事なさいました。空白をつくらないうにという大島先生にも、議員生活の最後まで会長として世界連邦に関わりたいという横路先生にも

共に世界連邦への愛情が感じられました。結局お二人は会長・事務総長を議員生活の最後まで務めつつ、ご勇退後も衛藤征士郎会長・中川正春事務総長の体制が取れるところまで引き継ぎにご尽力いただくことになったのです。

2016 年の参議院での世界連邦国会決議の直前、なおもあれこれ心配している私に対して「君は心配性だからな。大丈夫。これに反対するような人は国会議員の資格がない。」と横路先生が力強く断言なさったのも良い思い出です。

世界連邦運動に愛情を注いでくださった横路孝弘先生に心からご冥福をお祈り申し上げます。

(塩浜 修)

新支部設立記念はちどりクラブ新春フォーラムを開催 — はちどりクラブ支部 支部長 紺谷 和久



隆久昌子氏

はちどりクラブ支部が新設されて最初の新春フォーラムが 2023 年 1 月 14 日に東京・新宿区神楽坂ハピネス山の幸染めサロンにて開催されました。会の代表・紺谷昭子(隆久昌子)による新春のご挨拶と講演(テーマ:世界連邦運動協会はちどりクラブ支部の設立と当会の役割について)に続き、私、紺谷和久より支部長就任のご挨拶と今年の活動予定を発表させていただきました。日本国会委員会事務局の塩浜修氏もリモート参加くださり、盛会裡に終えることができたことを感謝いたします。

私たちの会の名称は南米アンデスに伝わる民話「はちどりのひとしづく」に由来しています。この民話に深く感銘を受け、主人公であるハチドリの行動に共感し、

“我々一人一人が愛と工夫と協力で、毎日続ける平和実践”をモットーとして、様々な平和運動に関する活動をしてきました。機関紙に北海道支部代表・荻野忠則氏より寄稿いただいたことがご縁で世界連邦運動協会の活動に関わらせていただくことになりました。それ以降 12 年間、北海道支部に在籍して会員活動を行なっていました。昨年末ごろから「映画でもテレビ番組でも、日本人の“まごころ”があらゆる問題を解決し世界平和を実現させることを伝えている」と母から聴かされ、半世紀以上「まごころ込めて、しあわせの手づくり」というスローガンで実践してきた活動が、いっそう平和運動に役立つ時代が来ていると感じた次第です。

映画「ラーゲリから愛をこめて」では、シベリア収容所に抑留されている父親から祖国の子供に宛てた遺言には「最後に勝つものは道義であり、誠であり、まごころである」と伝えるシーンがあり、家族全員に遺言していることは「健康第一」でした。世界連邦ハンドブック「健やかに生きる」を読み、「健康に暮らすことが世界平和の第一である」ということに強く共感した初心を忘れることなく、これからも運動協会の一員として活動していきたいと思えます。



国連大学を活性化しよう

国連大学は「人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ世界的な問題」の解決に資する研究を行うこと(国連大学憲章)を目的としている。これは正に世界連邦と目的を共通にするものではないか。国連大学内部には私たちのことを知らない

人も少なくないであろうが、国連大学は世界連邦の目的を達成するためのシンクタンクだ、と私は個人的に考えている。

しかしながら国連大学への政府拠出額は 2011 年 1,695 万ドルを最高に削減傾向にあり、2020 年には 641 万ドルになって

しまった。唯一日本に本部を置く国連機関として国連大学をもっと活用し、気候変動対策・感染症対策・軍縮不拡散・SDGs 実現等、増加する地球規模課題の研究を発見に行うよう働きかけるべきである。

(塩浜 修)

2023年度定例総会招集告知

下記のごとく世界連邦運動協会 2022 年度定例総会を開催しますので、ご出席ください。

*JICA 地球ひろば セミナールーム 600 を会場にして対面参加とオンライン参加の両方を併用しての開催を予定しております。

日時: 2023年5月13日(土)

午後1時～午後4時30分

場所: JICA地球ひろばセミナールーム600
(東京都新宿区市谷本村町10-5)

議題:

- ①会長・副会長・監事の選出の件
- ②2022年度会務報告に関する件
- ③2022年度決算・監査報告に関する件
- ④2023年度運動方針・活動計画に関する件
- ⑤2023年度予算に関する件
- ⑥支部・団体会員提案
- ⑦その他関連事項

註1: 総会は支部および団体会員から選出される代議員と役員によって構成されます。会員はオブザーバーとして出席することができますが、会場の席数に限りがあり

ますので、出席希望される方は予めお申し出ください。

註2: 支部提案のある支部は支部名、提案題名、発表者名を5月8日(月)までに事務局まで送付してください。お早目に提出いただけると、事前に理事会などで話し合い、深く検討することが可能になります。なお、当日の提案理由は簡明に述べ、所要時間節減にご協力ください。

註3: 「JICA 地球ひろば」の最寄駅は市ヶ谷駅 地図

<https://www.jica.go.jp/hiroba/about/map/>

本部と支部の主な動き

註: コロナ感染拡大の影響で変更になる可能性があります。

4月5～6日 京都国際平和構築センター(京都芸術大学付置研究機関)・世界連邦日本国会委員会共催
国連ボランティア中田厚仁氏没後30周年記念行事・式典シンポジウム
4月8～17日 中東和平プロジェクト in 亀岡

4月10日 平和を考えるフォーラム支部オンライン学習会
4月25日 世界連邦推進日本協議会理事会
4月25日 世界連邦運動協会理事会
5月13日 世界連邦運動協会定例総会

編集後記

☆今回のポスター・作文コンクールの表彰式は3年ぶりの開催でした。受賞者の皆さんの作品は平和への純粋で真っ直ぐな思いにあふれており、自分たちがどのように行動していけば平和を築くことができるかという考えが力強く示されていました。テーマにはSDGs、環境問題など時代を反映するような作品も多く、来年度のコンクールを今からとても楽しみにしています。(川口) ☆このたび情熱溢れる大橋光夫さんを世界連邦運動協会の新会長にお迎えすることができて嬉しい。経済界出身の会長は初めてであり、新しい視点で組織をリードしてくださることに期待が膨らむ。この機会に私も気持ちを新たに運動に邁進したい。(塩浜) ☆2023年3月開催のWBC(World Baseball Classic)第5回大会は日本時間21日の日米決勝戦で日本代表“侍ジャパン”が優勝した。それに至る試合の一部をテレビ観戦し、優勝直後に聴いた、大谷翔平選手の「どこが勝ってもおかしくない試合だった」という謙虚な発言が印象的であった。平和裏にフェアプレーで行う国際スポーツを見習って、国力を競うのも、殺傷・破壊行為による武力戦ではなく、切磋琢磨して向上する互惠の競争であってほしい。どの国の人々でも平和な環境で参加・優勝ができる世界にすることが世界連邦運動の目指すところでもある。世界連邦の実現の道は険しいが、あの手この手を試み、一進一退を繰り返しながらも長期のスパンで見れば前進しており、劇的な進展が訪れる可能性もないわけではない。(平口)

編集委員会 / 委員長: 川口美貴 副委員長: 塩浜修・平口哲夫 委員: 野田武志・谷本真邦

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org